

## 高齢者の色彩と図柄の好み(12) —地域別特性の傾向—

○吉田千恵子\* 伊藤紀之\*\* 橘 喬子\*<sup>3</sup> 小菅啓子\*<sup>4</sup> 田岡洋子\*<sup>5</sup> 佐々木由美子\* 小沢直子\*\*( \*昭和学院短大 \*\*共立女大 \*<sup>3</sup>夙川学院短大 \*<sup>4</sup>元山県立女短大 \*<sup>5</sup>京都短大)

目的 1997年度に実施した「高齢者の色彩と図柄の好み」調査の結果の内、色彩の好みを中心に検討すると共に、1987年以来実施してきた調査結果と比較し、地域別特性を明らかにする。

方法 対象(フェイスシート)、試料、観察、面接質問紙法等は(10)(11)報と同様。1群(東北・北海道)216名、2群(関東・甲信越)541名、3群(東京)405名、4群(関西)813名について色彩の嗜好率と相関、クロス集計からその特性を分析した。

結果 地域別での嗜好色の1位は、1群 10、0B4、0/10、0, 2群 3、8G5、4/10、1, 3群 3、8G5、4/10、1, 4群 4、4R4、2/13、7の各色であった。嫌悪色の1位は1~4群共にN1、2であり1987年以来ほとんど変わらない。カラー・イメージ・スケールにのせて分析すると嗜好色は、1~4群ともにsoft-coolが1位で37%の高率を得た。①soft-coolイメージが好まれる傾向にある。②Lgrのような微妙なニュアンスの色が好まれるとともに嫌悪色1位のN1、2が嗜好色でも上位であり、電化製品等の社会状況の影響と推察される。従って嗜好色には、時代の推移が生じている。嫌悪色の上位は1~4群ともにN1、2, N3、6を含むhard-coolでありトーン別にみるとdarktoneの暖色系が多く嫌われている。嫌悪色の変動は小さい。着装したい色彩の嗜好色の1位は、1群 10、0B4、0/10、0, 2群 N5、4, 3群 10、0B5、0/8、0, 4群 10、0B2、0/2、0であった。嫌悪色のN1、2は服装色には上位であり、イメージ・プロフィールは好きな、快いが上位で、流行の、地味なは下位。地域差、経年度差も小。